



題字 井口 文章
再刊 第309号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：現生徒会が語る錦城高校の今
迫る生徒会選挙、今年からの試みとは
二面：今話題のラグビーを写真付きで解説！
錦城高校ラグビー部を追う

今期生徒会、最後の大事な仕事へ

代議員会でも議論活発化

10月9日(水)に開かれた代議員会では、ペットボトル自販機設置問題を中心に据えて活発な議論がなされた。今期生徒会は任期終了を目前にしながらも、アンケートを実施するなど具体的な動きを見せている。生徒会長・副会長へのインタビューを通し、これからの課題や次期生徒会への改善点が明らかになった。



ペットボトル自販機設置に伴い生じる問題点を話し合う

10月9日(水)、書道室にて代議員会が開かれた。最初の議題となったのは、ペットボトル自販機について。生徒会長の松本千冬くん(3B)が、長松千冬くん(3B)が、ペットボトル自販機設置に向けて代議員が行ったクラスアンケートの内容や、現時点での決定事項などを話した。次に、制服の改善要望の声

が、増えていることについて、生徒会副会長の橋本太朗くん(2A)から説明があった。最近、特に女子から「夏服のベストを着用しなくてもよい」というルールにしてほしい」といった意見が意見箱に多く投函されているという。橋本くんは「意見箱に投函されている意見だけでは足りない」と、クラスからの声があったら生徒会本部に報告して下さい」と呼びかけ、代議員会は終了した。

また、立候補者の決定後、今年から昇降口付近に選挙ポスターを掲示する予定であること、昨年同様、実際の選挙で使用されている投票箱を小平市から借りることを明かした。投票箱はこれからの借りていきたいと思っているという。最後に、梅津くんは選挙管理委員長として「思ったよりもやるべきことが多いですが、無事終わらせてまた来年につなげていきたいです」と意気込んだ。(穂)

今期の活動をどう評価？

生徒会会長の松本千冬くん(3B)に、ペットボトル自販機設置の進捗状況について話を聞いた。現在、生徒会では、先日各クラスで行われたアンケートの結果を基に、集計を進めている。その後は、対多数やペットボトル自販機の導入による大きな問題の指摘などが無ければ、そのまま自販機を設置する予定だ。松本くんは任期終了まで、何かしらの返答を貰うかたちで進めたいという。「自販機を今期中に設置するのは難しいですね。問題に取り組み始めています」と呼びかけた。

現生徒会への意見は10月中に！

生徒会本部
週に1回月曜日の定例会で回収話し合いを行う

意見箱へ投函！

質問や要望

役員だけで解決できないものは先生や代議員を通す

その場で解決できる意見は回答を書いて掲示

ペットボトル自動販売機の設置
リュックサックの導入

もっと気軽に投函してください！
質問や要望などがあったら意見箱に投函するか生徒会役員に直接言ってほしいです。

多くの、お金のかかるものや代議員を通して話し合えないと変えられないものなどということがある。代議員会は生徒会が声をかけることで開くことができる。意見箱に投函すれば、意見が代議員に届く。遠慮なく声を上げてほしい」と生徒会に呼びかけた。

むらさき草

雨が降ったら「あいくの雨」と思うか「恵みの雨」と思うか。友達に勉強を教えると言われたら「面倒くさい」と思うか「役に立ってる」と思うか。あなたはネガティブと、ポジティブどちらを選ぼうか。もう2学期もあつという間に中間試験前。多くの錦城生は勉強に部活に進路に、と「情熱、友情、青春」の日々だと思ふ。とはいえ毎日続く錦城生活。ふと同じ毎日の繰り返して「つまらない」と感じることもないだろうか。▼アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズは毎朝、鏡の前で「もし今日が人生最後の日でも、今からしようとしていることをするだろうか」と自身に問いかけたという。▼自分からどうすれば、悔いなく楽しい毎日を送れるだろうか。▼父の仕事の関係で、引っ越しを8回経験した。最初のうちは、知り合いが1人もいなくて息苦しくて、どうしても自分からはやくは挨拶も、声も怖くかけられないというネガティブ思考に陥っていたと思う。▼けれども、小学2年生の時に読んだ新聞のコラムに載っていた「感謝の言葉は知らない人にもすぐに届く、自ら行動すればあつという間に世界は変わる」という言葉がネガティブ思考をポジティブ思考に変えてくれた。それならできる、と思つて些細なことでも「ありがとう」と感謝の言葉を伝えるようになっていくと、友達を作ることが自然と出来るようになっていく。▼悔いなく楽しい毎日を送るには「ポジティブ思考」が欠かせない、と思う。▼錦城名物である毎日の小テストも正直「だるい」のだが、ポジティブに捉えれば勉強のきっかけ作り、自分を成長させるためのチャンスだと思ふことができるかもしれない。明日からも続く錦城生活、ネガティブな日々とするかポジティブな日々とするか、あなたはどちらを選択しますか。(雀)

新しい高校新聞を目指して

再刊300号突破記念企画第2弾、新しい高校新聞を目指して。前回の特集に続く錦城高校。また、53回生の斎藤菜々海さん(181・182号)に、これからの錦城高校新聞のあるべき姿について話し合ってもらった。

51回生の佐藤芽玖さんは「とても感慨深いです。それぞれの代に、新聞のレイアウトや記事などの技術的な面での革新していく部分があつて素晴らしいと思います」と話す。また、これからの錦城高校新聞について「錦城生を励ます温かい新聞を作りたい」と話している。福住さんの話では、吉野彰さんの講義・講演に参加して、お話ししたことがある。大きな役割であると思います」と熱く語った。

55回生の大石凌太郎くんは「先輩方が築き上げてきた写真や記事のレイアウトを、さらに自分たちの代でブラッシュアップし、後輩の代でも作ってほしい」と話した。

「忘れがちな地元の記事について掘り起こすことも、若者たちが作る錦城高校新聞の大きな役割であると思います」と話した。

「錦城高校新聞のあるべき姿について語り合う歴代委員長」として、10月に今年の一丸受賞者が発表され、化学賞で吉野彰さんが受賞された。受賞理由は「リチウムイオン電池の開発。錦城高校新聞の元編集委員の45回生の福住勇矢さんは現在、筑波大学の博士課程に在籍中で、リチウムイオン電池のその先の未来の電池の基礎理論を研究している。福住さんの話では、吉野彰さんの講義・講演に参加して、お話ししたことがある。大きな役割であると思います」と話した。

と、10月に今年の一丸受賞者が発表され、化学賞で吉野彰さんが受賞された。受賞理由は「リチウムイオン電池の開発。錦城高校新聞の元編集委員の45回生の福住勇矢さんは現在、筑波大学の博士課程に在籍中で、リチウムイオン電池のその先の未来の電池の基礎理論を研究している。福住さんの話では、吉野彰さんの講義・講演に参加して、お話ししたことがある。大きな役割であると思います」と話した。

候補者募集に選管奔走

10月8日(火)から10日(木)に錦城高校新聞の告知が昼休みの定時連絡放送で行われた。生徒会本部役員5人がそれぞれの役割の仕事を人それぞれ説明する。梅津くんは「積極的にチャレンジして立候補をしてください」と呼びかけた。梅津くんは選挙管理委員長として「思ったよりもやるべきことが多いですが、無事終わらせてまた来年につなげていきたいです」と意気込んだ。(穂)

合唱祭に向けて始動

10月5日(土)、合唱祭に向けて各クラスの希望曲が提出された。希望が重なっているクラスについては、次の委員会で調整を行う予定だ。

合唱祭実行委員長の細川遥菜さん(2G)は、1年生は音楽、美術、書道とクラスが分かれているため、音楽クラス以外のモチベーションが下がってしまうことを問題にあげた。しかし、クラスメイトと団結して練習をすることで、誰にでもチャンスが訪れるのが合唱祭の魅力。「今年、『全員参加型の合唱祭』を目指して、呼びかけなどもしていくつもりです。みんなを盛り上げられるように工夫したい」と細川さんは決意を述べた。(穂)

生徒会副会長の橋本太朗くん(2A)には、公約と今期の活動について振り返ってもらった。橋本くんが掲げていた公約は、主に2つだ。

1つ目は、意見箱の改良。現在、意見箱は週に1、2通の投書があるのに対し、実際に取り入れられた意見は少ない。理由は寄せられた意見の

1つずつ問題を解決していきま

1つずつ問題を解決していきま。生徒会副会長の橋本太朗くん(2A)には、公約と今期の活動について振り返ってもらった。橋本くんが掲げていた公約は、主に2つだ。

1つ目は、意見箱の改良。現在、意見箱は週に1、2通の投書があるのに対し、実際に取り入れられた意見は少ない。理由は寄せられた意見の